

Dream21

vol.50

■事務所開設のご案内

中華料理屋「集来」として皆様に親しまれてきた場所を、事務所としてお借りしました。「政治家らしくない政治家の事務所」をコンセプトに、地域コミュニティの場になればと考えています。厨房もありますので、料理教室や食事会など様々な企画が出来たらいいなと思っています。ぜひお近くに見えましたらお立寄り下さい。



【事務所】 住所：四日市市東坂部町377-7
電話：059-330-4088
FAX：059-330-4089

日々
更新中!!

情報発信

SNSでの情報発信に力を入れています。
フォローお待ち申し上げます。

◆いながき昭義ブログ 「初心、継続。」



<https://ameblo.jp/dream-21/>

◆いながき昭義ツイッター



<https://twitter.com/dream21ai>

◆いながき昭義インスタグラム



https://www.instagram.com/akiyoshi_inagaki/

◆いながき昭義 フェイスブックページ



<https://www.facebook.com/akiyoshi.inagaki.mie/>

◆三重ワールドネットTV



毎週一回「坂の上の雲に向って」という
15分番組を配信しています。

<https://www.youtube.com/channel/UCV65ckWv5tdxBvOkcEcrAjw>

◆いながき昭義ホームページ



これまでの実績、活動写真、Dream21
バックナンバー、私の思いなど情報満載
です。



<http://www.dream-21.jp/>



いながき昭義が 県議会最大会派 新政みえ代表に 就任！



4月の県議会議員選挙で22,005票という大きなご支援をいただき5期目の当選をさせていただきました。ご支援いただきました皆様に心から感謝申し上げます。市長選挙の敗戦から約2年間、医療や介護の分野で様々な仕事をさせていただきました。もう一度人生を見つめ直す貴重な時間となりました。またこの間、明治大学大学院に入学し新たな学びの機会を頂いています。4月以降、議員活動との両立は大変ですが、今年度中に修士論文を書き上げて卒業したいと思っています。

当選後は、21名の県議会最大会派新政みえの代表を務めることになりました。これまで議会改革や県政を先導してきた歴史ある新政みえの代表は重責ですが、貴重な経験となります。全力でがんばります。

政治家としての「ゼロからのスタート」が始まりました。今後も変わらぬご支援、ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

三重県議会議員 稲垣 昭義

◆いながき昭義プロフィール◆

- 昭和47年 四日市市東坂部町生まれ（現在47歳）大池中学校・四日市高校・立教大学法学部卒業、
現在明治大学大学院ガバナンス研究科在学中
- 平成7年～10年 株式会社三重銀行勤務
- 平成11年 三重県議会議員選挙出馬（26歳）416票差で次点
学習塾・パソコン教室・NPO法人などを立ち上げ4年間生活
- 平成15年 三重県議会議員選挙 初当選以来4期連続当選
四日市港管理組合議会第45代議長（歴代最年少）、予算決算常任委員会委員長（歴代最年少）等を歴任
三重県手話言語に関する条例検討会座長など多数の条例検討会に携わり議員提案条例を制定してきた。
- 平成28年 9月 四日市市長選挙出馬 落選
ユマニテック医療福祉大学 校長他、介護・医療の仕事に関わり2年間生活
- 平成31年 4月 三重県議会議員選挙 5期目当選 新政みえ代表就任



【個人献金のお願い】 いながき昭義の政治活動は皆様からの個人献金にお支え頂いています。可能な限りのご支援
何卒よろしくお願い申し上げます。尚、企業、団体からの政治献金は政治資金規正法により禁止されています。
三重銀行 本店 普通預金 口座番号1804244 名義 いながき昭義政経情報交換会
百五銀行 生桑支店 普通預金 口座番号397102 名義 いながき昭義政経情報交換会



代表質問に登壇

三重県議会議員
いながき昭義

川崎市のスクールバス事件を受けて、通学路の安全対策と8050問題に取り組む決意!!

稲垣昭義議員：川崎市多摩区でスクールバスを待っていた児童ら約20人が殺傷された、本当に憤りを感じる痛ましい事件が起こりました。今回の事件を受けて、知事として何を思い、何をやらなければいけないと考えているのかお聞かせください。子を持つ親の一人として、子どもが巻き込まれる事件や事故が起こると身につまされる思いです。警察本部長の子どもたちの安全を守る決意をお聞かせ下さい。

鈴木英敬知事：県では、事件直後に、防犯ボランティアのリーダーとして活動されている方々に対し、学校等との連携による見守り活動の強化をお願いするとともに、各種活動時の御自身の安全確保についても注意を喚起しました。今回の事件も踏まえて、万が一のときの対処方法や日ごろの備えにかかる内容を含むフォローアップ研修を実施する予定です。あわせて、国の事業も活用し、警察官OBや防犯の専門家等のスクールガードリーダーの委嘱を行う取組なども検討しています。

今年度策定する「安全で安心な三重のまちづくりアクションプログラム」の重点テーマの一つに子どもを犯罪から守ることを位置づけ、取組を促進し、安全で安心な三重を目指します。

難波健太警察本部長：この事件では、スクールバスを待つ児童らが被害に遭っている状況から、各警察署に対しては、これまでの対策に加え、集団登校の集合場所など、登下校中の子どもが集まる場所の警戒やパトロールを強化するよう指示しました。

通学路等における子どもの安全確保のための対策を推進する決意です。

稲垣昭義議員：もう一点、このような加害者がなぜ生まれたのか、このような犯罪者を生まないために私たちに一体何ができるのかといった視点も非常に重要です。

内閣府の調査では、40歳から64歳のひきこもり中高年者の数が、推計で約61万3000人に上ったとのこと。80代の親とひきこもり傾向にある50代の子どものという8050問題という言葉も言われる社会となりました。介護や金銭的な問題などで追い込まれていく問題を抱えた人たちに対して、真剣に向き合わなければいけません。

もちろん、ひきこもりの方が犯罪者になるということではありません。しかし今回の事件の後、44歳のひきこもりがちな息子を

父親がまわりに危害を加える可能性があるとの理由で殺した事件も起こりました。私は、この8050問題に腰を据えて取り組む必要があると感じていますが、知事の考えをお聞かせください。

鈴木英敬知事：一つは相談窓口に関する啓発、もう一つは市町や地域の支援機関の取組を積極的に支援し、居場所づくりやアウトリーチの拡充など支援態勢の充実、それから人材育成等、関係機関のネットワークの充実に取り組んでいく必要があると考えています。現状と実態調査結果を踏まえながら、しっかり深い議論を関係機関とともにやっていきます。

防災・減災対策パッケージの問題点を鋭く指摘！！

稲垣昭義議員：知事は、防災・減災対策に集中的に取り組むため、防災・減災の政策パッケージを創設し、その規模は3年間で総額約1000億円規模とし、ソフト・ハード両面での対策を加速するとされています。しかし、6月補正を含めた令和元年度の予算を見てみると、知事の思いとは少し乖離があると感じます。

この防災減災対策パッケージについて、当初予算を合わせて約755億円となっていますが、特にハード面は今までの公共事業の取りまとめが多く含まれており、この考え方だと逆に3年間で1000億円との目標はかなり低い目標になると感じます。ハード面に関して、広い意味ではなく、真に防災減災対策に資するものを取り出してパッケージに入れるよう改める必要を感じますが、知事の考えをお聞かせください。

鈴木英敬知事：広義には防災に入る可能性はあるけれども、突き詰めていけば通常のものも含まれているのではないかと議員の御指摘だと思うのですが、そういう御指摘も理解できる一方で、通常の対策であったとしても、それが命を救う防災・減災につながることは大いにあり得ると思います。防災・減災対策というのは空振りを恐れず、リスクの範囲を広くとることでその備えができると思っています。

しかしながら、そういう御指摘もありますから、しっかりと留意しながら、効果、狙いなども丁寧に説明するように心がけます。

全国初、令和2年度予算編成から市民参加予算導入へ！！

稲垣昭義議員：知事は政策集で、「フランス・パリ市などで行われている参加型予算の導入について検討します。」と書かれました。市民参加予算（※1）は、討議デモクラシーの実践として世界中で急速に広まっていますが、代表制民主主義の中に、市民参加予算の仕組みを導入すれば、議決権を持つ議会との兼ね合いや、予算編成権を手放したくない行政との関わりといった点で様々な問題が起こると思われます。

しかし、私は、税の配分に県民が直接かかわれる仕組みは非常に重要であると考えます。この2年間、議員という立場を離れて、行政や議会を見る機会をいただきました。「議会は県民とかけ離れたところでやっているのではないか」、政治離れが進み、投票率が選挙のたびに下がる中、ポピュリズムという今だけを求めた風潮が広がり始めているように感じています。この民主主義の危機的な状況にあって、新しい未来に向かって進むキーワードは、「参加型」と「当事者意識」だと考えるようになりました。

この市民参加予算は、まさに市民が参加型で、当事者意識を持って自らのまちの予算をつくることといった日本の民主主義の新しい形になると期待しています。ぜひこの市民参加予算の制度設計をご検討いただき、全国で初めての市民参加予算を三重県でやろうではありませんか。知事の決意をお聞かせください。

鈴木英敬知事：参加型予算は、県が実施する事業の構築に県民の皆さんの新たな発想や身近な問題意識を取り入れ、事業の質の向上や限られた資源の有効活用を図るとともに、県民の皆さんが県予算に興味を持ってもらい、まさに協創で公共に参加していただく機会を増やすことを目指し、令和2年度の当初予算編成からの導入に向けて検討します。

具体的には、事業選定に、自分で提案するところまでは行かな

いけれども、この提案だったら実現したらいいとの思いを表す投票制度も設ける予定です。

投票率が伸びない中、政治や行政に多くの人たちに関心を持ってほしい、参加してほしい、一緒に前に進んでほしい、との思いでしっかり検討していきます。

※1）市民参加予算とは、1989年にブラジルのポルトアレグレ市で始まり、2000年に入り急速に広がり、現在世界では2000以上の自治体に取り組んでいます。南米やヨーロッパを中心に広がりを見せていますが、アジアでは韓国が2012年から大統領令で地方自治体に市民参加予算を義務付けています。ちなみに韓国では、行政が議会に予算案を提出するときに、住民の意見書を合わせて添付することが義務づけられております。

県の総合計画にSDGsの視点を！！

稲垣昭義議員：今後4年間を見据えた次期行動計画の策定に当たり、これまで行政の弊害と言われてきた政策が縦割りになることに対して、SDGs（※2）という視点を入れることで、横串が刺せるのではと期待しております。

知事は、Society5.0（※3）やSDGsは県政運営の方向性と共通項が多く、親和性があると述べていますが、具体的にどのように次期行動計画にSDGsを生かしていこうと考えているのかお聞かせください。

鈴木英敬知事：次期行動計画の策定に当たっては、この二つの考え方を、施策を展開する視点として捉えることとしました。Society5.0やSDGsが実現する未来の三重県の姿を思い描き、各分野の施策とのかかわりについて検討し、次期行動計画の中で整理していきます。

具体的には、SDGsやSociety5.0のための事業を何か立てるといよりは、横断的にいろんな施策をこういう視点から見えていくこととなりますので、各施策を説明していく際に、どういう関連があるのかを示します。

※2）SDGs(エス ディー ジーズ)とは「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称。2015年9月国連サミットで193ヶ国により採択されたもので、2030年までの17の大きな目標とそれらを達成するための169の具体的な取組で構成されている。日本は2016年12月に「SDGs実施指針」を決定した。

※3）「狩猟社会」「農耕社会」「工業社会」「情報社会」に続く、人類史上5番目の新しい社会、それが「Society（ソサエティ）5.0」です。第4次産業革命によって、新しい価値やサービスが次々と創出され、人々に豊かさをもたらしていきます。

データ・サイエンス・バレー構想始動！！

稲垣昭義議員：知事は今後の世界経済やイノベーションを支えるエンジンとなるデータに注目をして、そのデータを活用した新たな産業創出や地域課題解決に向けて、データ・サイエンス・バレー構想（仮称）を展開すると言われています。具体的な取組をお伺いします。

鈴木英敬知事：今年度、有識者会議を設置して構想を練ります。ポイントは、一つは、データ・サイエンスをやっていく、あるいはデータを活用していく産学官連携のプラットフォームをつくること、もう一つは具体的なプロジェクトを展開していくこと、もう一つはそれをやれる人材を育成すること、この三つが大きな柱になります。

新政みえはパブリテックを 知事と共に進めます!!

稲垣昭義議員：次にスマート自治体の取組についてお尋ねをします。行政・政治課題をテクノロジーを使って解決していこうという考え方を、鎌倉市では、公共(Public)と技術(Technology)を掛け合わせた造語で、パブリテック（※4）という言葉で市政において取組を始めています。知事はスマート自治体への挑戦ということで、RPA（ロボティック・プロセス・オートメーショ

ン）を適用できる業務を総務部内で抽出した上で、試行的に導入する方針を示されました。

知事の目指すスマート自治体についての考えをお聞かせください。つくば市や鎌倉市など新しい取組が始まっており、このスマート自治体のネットワークをつくるべきと考えます。また、県内の市町も一緒に進めることがより大きな効果を生むと考えますが、ご所見をお聞かせください。

鈴木英敬知事：観光局における外国人旅行者や県税事務所における外国人住民への対応など、4業務について先行してAIの活用に取り組みます。また、RPAの活用は、他の都道府県での導入や実証実験が進んでいる業務を参考に、適用可能性の高い業務を複数選定し実証実験を実施します。あわせて、モバイルワークなど多様な働き方を実現できるように、次期県情報ネットワークの設計構築を行います。

県と市町がスマート化について合同で研究する検討会議を設けるとともに、市町のRPA導入において積極的な自治体をモデルとして支援し、市町のRPA導入につながるマニュアルを作成するなど、市町のスマート化に向けた支援を行います。

※4）パブリテックとは、AIあるいはディープラーニング、ブロックチェーン等の先端技術を用いて、社会課題を解決する取組

Jリーグ基準を満たしたスタジアム建設へ 知事の決意を問う！！

稲垣昭義議員：最後に三重とこわか国体・三重とこわか大会後のスポーツ振興についてお尋ねします。私は、国体後のビジョンの一つとして、Jリーグ基準を満たしたスタジアム建設は取り組むべき重要課題だと考えます。特に県内の2チームがJリーグ入りを目指し、JFLで戦っていることを考えるとスピード感も必要であると考えますが、知事の考えをお聞かせください。

鈴木英敬知事：昨年11月、三重県サッカー協会が中心となって、Jクラブ誕生とスタジアム建設を推進する県民会議が発足され、クラブ設立やスタジアム建設に向けて、チームの一本化をどのように進めていくか、スタジアムの立地条件や整備・運営をどうしていくか、また県民が一体となって応援できる環境づくりなど、多くの課題が提示されています。

これらの課題解決に向けて、県としても県民会議に引き続き積極的に参画し、前向きに議論していきます。私自身も特別顧問として、しっかりと意見を申し上げていきます。

県民が一体感をもって応援できるJリーグチームの誕生と、スタジアムを中心とした活気あるまちづくりの実現のための機運醸成と環境整備に向け、関係の皆さんと連携し、官民一体、オール三重で取組みます。



三重県知事
鈴木えいけい

代表質問で知事と激論